

第1回 木の文化都市を継承・創出する金沢会議 発言要旨

日 時：令和3年8月5日（木）午後2時～

場 所：金沢市役所4階 兼六会議室

■今年度の予定事業について、木に関わる業界との意見交換について

- ・ 他都市では建築士会が中心となり、「ヘリテージマネージャー」を養成している。そこでは、木造建築や歴史建築等に関する内容を建築士協会が勉強会を開催し、そのような一定の知識を持った資格保有者が歴史的建造物への設計にあたる等の仕組み化がされている。「ヘリテージマネージャー」は歴史に偏っているが、建築士側で養成プログラムを開催し、知識を持った人を育てようとした動きであり、本計画にも主旨が似ている。先進的進んでいる地域は、兵庫県、静岡県等である。「ヘリテージマネージャー」の切り口で、官民連携を進めることも可能。
- ・ 「木造建築物を推進するトップランナー」と、「木造建築物を普及する集団」と切り分けて考えることもよい。「木造建築物を推進するトップランナー」には、新しい木造建築を念頭に入れた新たな建築物の設計に推進していただき、金沢の建築業界をリードしていただく。一方で、「木造建築物を普及する集団」には、木造建築物が普及するような施策を図っていくとよい。
- ・ 全国からトップランナーを集めるとよい。「都市木造」に関わる領域は、最初は小さなマーケットであり、利益が追いついてこない。しかし、リスクがあるがチャレンジすることや、それに対し、行政サイドも支援をすることが必要。みんながフラットに参加できることも必要である。
- ・ 金沢市や北陸にも、このように技術を持った人たちがいると思われる。そのような技術を持った人（林業関係者、製材関係者、建築関係者等）を組み合わせることで、面白いことが起き、先進事例に変化していくと思われる。
- ・ 「木の文化都市・金沢 市民シンポジウム」で議論した通りに、「木の文化都市の創出に向け、一人ひとりがどのようにクリエイティブになれるか」、「木の文化都市の創出に向け、挑戦したいか」等が重要である。